

## 地元の「天池」を守ろう！雄島っ子環境保全活動隊



実施担当者 坂井市立雄島小学校  
教頭 ハウカ 佐由里

### 1 はじめに

校区には、林に囲まれ、湧き水が出る「天池（あまけ）」という池がある。天池には、絶滅危惧種に指定されている日本固有の希少な水生昆虫や両生類など、多様な生き物が生息しており、これまで地元の人たちによって大切に守られてきた。しかし、数年前から特定外来生物であるアメリカザリガニ（以下：ザリガニ）が侵入し数を増やしたことで、天池に生息していた水草が失われ、従来生息していた生き物が減少してしまった（写真1、図1）。



2012年5月16日



2025年5月26日

写真1 天池の様子

(提供：福井県自然保護センター)

本校では、天池が多様な生き物が生息する豊かな池であった当時から、第5学年全員が天池の自然環境について学ぶ観察会を継続して行ってきた。観察会は、県自然保護センターや地元の「天池を守る会」の方々の協力を得て実施しており、ザリガニの数が増加してからは、近年の池の変容やザリガニの生態、捕獲の方法、捕獲数の推移などについて学習している。

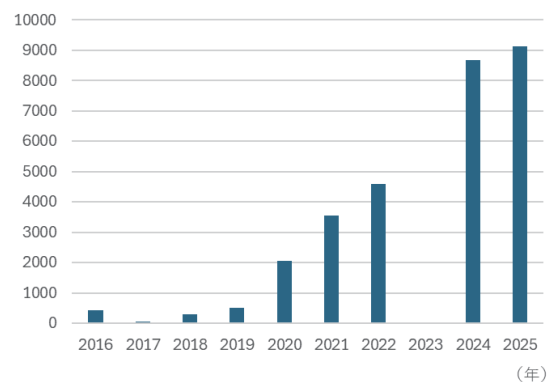


図1 アメリカザリガニ捕獲数

※2023年は比較可能なデータなし (提供：福井県自然保護センター)

昨年度の観察会では、地元の方々が天池を元の姿に戻そうと懸命に活動している現状を知り、「私たちも昔の姿に戻したい」と地域の課題を自分事として捉える児童が現れた。これをきっかけに、今年度クラブを立ち上げ、天池の自然環境保全に関心のある6年生8名が、中谷財団の助成金を活用して調査活動を開始した。

まずは、天池を含む陣ヶ岡丘陵の自然環境や、天池と他の池との比較、ザリガニや水生昆虫の生態について、県の自然保護センターの大宮氏から学び、自分たちに何ができるかを話し合った（写真2、3、4）。また、校区内の越前松島水族館を訪問し、日本固有のゲンゴロウの生態について学ぶとともに、飼育の様子を見学した。これらの学びを通して、自分たちに何ができるかを話し合い、次の3つの活動に挑戦した。



写真2 天池での調査



写真3 ザリガニ観察



写真4 海浜公園内の池での調査

## 2 活動内容

### 2-1 自作のトラップでのザリガニ捕獲に挑戦

身近なペットボトルを使ってトラップを作成し（写真5）、エサをサキイカにして、7月に池に仕掛けた（写真6）。しかし、捕獲できたのはモリアオガエルのオタマジャクシのみで、ザリガニは確認できなかった。そこで、入り口の穴が大きかったためザリガニが入っても外へ逃げてしまったのではないかと考え、2回目は入り口の穴を小さくする工夫を行った。また、エサの違いによる影響を確かめるため、エサを5種類に増やし（写真7）、10月に再度仕掛けたが、捕獲できたのは貝（サカマキガイ）のみであった。



写真5 ペットボトルトラップ作成



写真6 トラップ仕掛け

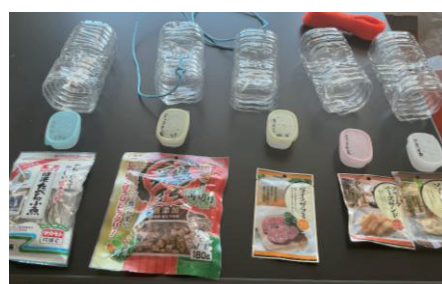


写真7 トラップと5種類のエサ

ペットボトルは透明であるため、暗い場所を好むザリガニは入りにくく、仮に入ったとしても穴から逃げてしまう可能性があると考えた。そこで、3回目の挑戦として、ペットボトルやエサは使わず、棒とネットで作る「しば漬けトラップ」を作成し（写真8）、1月に仕掛け、2月に引き上げた（写真9）。その結果、ザリガニの脱皮した抜け殻が1つ確認された。これは、ザリガニがしば漬けのネットにつかまり、そこで脱皮していたことを示しており、ザリガニ捕獲の可能性があることが分かった。今回は時期的にザリガニの活動が活発ではなかったため、今後は時期を変えて試す必要があるが、しば漬けトラップはエサを使用しないため、効果が確認できれば、持続可能な捕獲方法の一つになると考えられる。



写真8 しば漬けトラップ作成



写真9 トラップ引き上げ

## 2-2 イベント企画に挑戦

ザリガニを減らすためには、継続的な駆除が必要である。一方、クラブ員だけでは人員、時間の確保が難しいと考え、「ザリガニ釣り・とりイベント」を企画した。児童自身がチラシ(図2)を作成し、全校児童に呼びかけた。

10月19日(日)に実施したイベントには、児童22名、保護者11名の計33名が参加し、約1時間の活動でおよそ300匹のザリガニを捕獲することができた(写真10、11、12)。短時間でこれほど多くのザリガニが捕獲できたことから、天池には依然として多くのザリガニが生息している現状が明らかになった。

一方で、このイベントを通して、天池が抱えている外来生物の問題や環境への影響について、児童だけでなく保護者にも広く伝えることができた。また、単なる駆除作業ではなく、友達同士や親子で楽しみながら主体的に取り組める活動として工夫、実践することができた点に大きな意義があった。

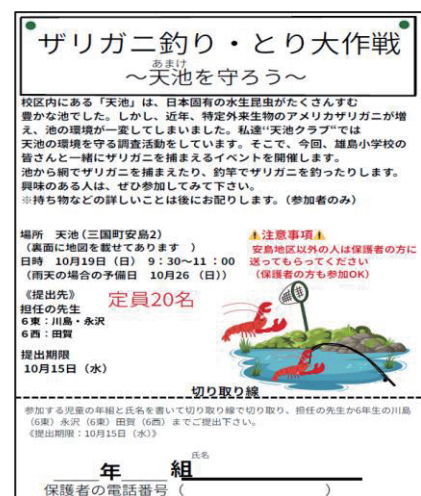


図2 チラシ



写真10 クラブ員による説明



写真11 ザリガニ捕獲



写真12 捕獲したザリガニ

## 2-3 水草移植に挑戦

ザリガニに水草が切られてしまうことから、児童は天池に水草を植えることが環境改善につながるのではないかと考えた。「天池を守る会」が池の一部を囲い、ザリガニが入りにくくした場所を設け、その中に水草を移植していることを知り、移植体験をさせていただいた。今回は、従来天池に生息していたミズユキノシタを用いた。

10月にプラスチックカップに入れた土に水草を植え（写真13）、カップごと囲いの中に設置した（写真14）。11月の観察では、根が張り、定着している様子が確認できた。さらに2月の観察でも葉が見られたことから、厳しい冬の時期を越えることができたと考えられる。今後、気温が高くなる時期に水草がさらに成長し、天池の環境改善につながることを期待している。



写真13 ミズユキノシタと移植用カップ



写真14 移植の様子

### 3 まとめ

本活動を通して、児童は天池に生息する生き物同士の関係や、特定外来生物であるアメリカザリガニが自然環境に及ぼす影響について、実体験を通して具体的に理解することができた。捕獲トラップの工夫、イベントの企画・運営、水草移植など、試行錯誤を重ねる中で、環境問題は一度の取組で解決できるものではなく、継続的かつ多面的な関わりが必要であることを、実感をもって学ぶことができた。

また、年に一度の観察会にとどまらず、クラブ活動として継続的に天池に足を運び、調査と実践を行えたことの意義は大きい。季節や時期による変化を継続的に観察することで、地域の方々が長年にわたり取り組んできた環境保全活動の価値や苦勞を理解し、自分たちもその担い手の一人であるという意識を高めることにつながった。

さらに、イベントの実施を通して、天池が抱える外来生物の問題を、児童だけでなく保護者や地域にも広く発信することができた。本活動は、地域の自然を教材として課題を見だし、調べ、考え、行動する探究的な学びの一例であり、中谷財団の助成によって調査・実践の幅を広げることができた。今後も地域と連携しながら、天池の環境保全とともに、地域を大切に思い、自ら行動できる子どもの育成につなげていきたい。

### 謝 辞

本活動は、公益財団法人 中谷財団による科学教育振興助成のご支援を受けて実施することができました。ここに記して、心より感謝申し上げます。

また、企画段階から調査・実践に至るまで終始にわたり懇切丁寧なご指導を賜りました福井県自然保護センター 大宮正太郎様に、深く御礼申し上げます。合わせて、貴重なご助言と多大なご協力を賜りました「天池を守る会」会長 出南信弘様、理事 北村友美子様、福井県エネルギー環境部 自然環境課 小林滉平様に、心より感謝申し上げます。

### 参考文献

環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室：アメリカザリガニ対策の手引き（2023）